

議 事 録

会 議 名	平成25年度第3回寒川町まちづくり推進会議
開 催 日 時	平成26年2月24日（月）午後2時00分～4時10分
開 催 場 所	寒川町役場3階 議会第1・第2会議室
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	<p>○出席委員 小笠原委員、斉藤(雅)委員、新保委員、藤岡委員、井上委員、吉田委員、横手委員（副会長）、脇委員、斉藤(正)委員、山口委員、清田委員、谷村委員、山本委員、森井委員、平本委員、菊地委員（会長）</p> <p>○欠席委員 押味委員、木立委員、右城委員、磯川委員</p> <p>○事務局 土屋町民部長、田中協働文化推進課長、伊藤主査、吉田主任主事</p> <p>○傍聴者数 4名</p>
議 題	<p>1 町民活動団体アンケートについて</p> <p>2 各部会等報告</p> <p>① 町民参加研究部会</p> <p>② 女性の活躍の場研究部会</p> <p>③ 熟年パワー社会還元研究部会</p> <p>④ 住民投票条例勉強会</p> <p>3 今後の取り組み・スケジュール</p> <p>① 今後の取り組み・スケジュールに対し提出のあった意見</p> <p>② いろいろな団体がネットワークを深めて活動していける仕組みについて</p>
決 定 事 項	<p>○町民活動団体アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・結果の簡易版は作成せず、推進会議の任期満了となる6月末までに詳細版を作成し、協力いただいた団体へお返しする。</li> <li>・団体から寄せられた意見は結果に掲載するが、推進会議として個別回答はせずに、全体の傾向をまとめて町へ報告するなかで、各意見に対して町に配慮してもらうこと</li> </ul>

	<p>とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・結果の設問に対するコメントの取り扱いについては、今回の推進会議、及び先に開催した第4回幹事会の内容で修正する。</li> </ul> <p>○今後の取り組みスケジュールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推進会議の6月最終取りまとめについては、団体及び庁内アンケート結果や各部会の活動報告を含め、協働の仕組み作りを集約することとし、推進会議及び各部会ともに、まとめにあたっては会議資料10の内容を参照することとする。</li> <li>・5月開催予定の幹事会までに各研究部会の活動内容をまとめ、報告することとする。</li> </ul>		
公開又は非公開の別	公開	非公開の場合その理由（一部非公開の場合を含む）	
議事の経過	<p>(事務局) ～議題前に事務局より報告～</p> <p>資料1により、PTA連絡協議会選出の若林委員が山本委員へ、民生委員児童委員選出の熊谷委員が森井委員へ交代されたことと、資料2により、1月29日(水)に開催された第4回幹事会の報告を行う。</p> <p><b>その他</b></p> <p>(会長) 議題に入る前に、事務局から2名の委員交代について報告があったところなので、次第6その他、委員の交代に伴う推進会議運営幹事について、及び、委員の交代に伴う部会への所属について、事務局より説明をお願いします。</p> <p>(事務局) 資料11により、推進会議内規では幹事を置くことになっているが、民生委員児童委員選出の前任である熊谷委員が幹事であったため、新たな幹事の選出について、26年6月末までという今期推進会議に残された期間も踏まえて検討をお願いしたい。</p> <p>(会長) 新たに委員になられた方の意向が大事と思いますが、熊谷委員の後任である森井委員はいかがですか。</p> <p>(森井委員) まだ委員になったばかりなので、経験豊かな方へお願いできればと思います。</p> <p>(会長) 事務局としては、幹事が不在でも支障ないと考えるか。</p> <p>(事務局) 推進会議として、そのような判断であれば問題ないと考えます。</p>		

(会長) 内規上では幹事の人数が足りないことになるが、推進会議としてよろしいですか。

(委員一同) 異議なし。

(会長) また、新たな2名の委員の研究部会への参加についても、本人の意向が大事ですが、前任者が属していた部会へ参加していただくことで、森井委員と山本委員はよろしいですか。

(森井委員・山本委員) 構いません、よろしくお願いします。

(会長) 途中からの参加になりますので、分からないこともあると思いますが、可能な限り他の委員もサポートしていきますのでよろしくお願いします。委員の皆さんもよろしいですか。

(委員一同) 異議なし。

#### 1 町民活動団体アンケートについて

(事務局) ～資料3の説明(省略)～

(会長) 幹事会で議論したところだが、アンケート結果の送付文章と集計表内に記載してあるコメントの取り扱いについて、議論が長引いてしまい全てのことを議論しきれなかったので、本日の会議では資料3(6)の⑤と⑥の取り扱いについて決める必要がある。改めての確認となるが、このアンケートは協働の仕組みづくりを目的として実施したもので、この結果をどういった形で活かしていくかが大事になってくる。特に幹事会へ出席されていない委員は、幹事会での議論の内容が見えないと思うので、幹事会の内容に対する質問も含めて、まずは⑤の意見をいただきたい。

(清田委員) 前回の推進会議では、取りあえずアンケート結果の簡易版を早急に団体へお返しすることで決まったものと理解しているが、団体から多くの意見が網羅されているものを推進会議でまとめてからお返しすることは、残された時間を考えると難しいと思う。

(会長) アンケート結果の送付文章について、幹事会で2時間議論しても決まらなかった状況を踏まえると、詳細版を6月までにまとめきれぬのか、時間切れというのが事務局としてひとつの提案になると思うのだが、他の委員からはいかがですか。

(谷村委員) そもそもアンケートを実施した目的としては、皆さんがどう感じて、どう受け取っているのかについて、

それをどのように利用していくかが重要だと思う。まずは回答いただいた団体へ簡易版をお返しして、詳細版は6月までにまとめられるかという思いもあるが、もっと議論してアンケートの目的を達成したということをお返しした方が良いと思う。

(斉藤(雅)委員) 当初の予定通り、簡易版を出してから詳細版も出す考えですね。

(谷村委員) はい。取りあえずはご協力頂いた団体へ簡易版をお返しする必要があると思う。アンケートをいただいた団体にしてみれば、そもそもアンケートは何でやったのかとなるし、我々としても、まちづくりや自治基本条例がどの位浸透しているのかも含めて、そちらに重点を置いた方が良いと思う。

(井上委員) 幹事会で2時間議論しても簡易版の結論が出ないという状況では、簡易版を作って詳細版まで作ることは我々の任期が6月末であることを考えると難しい、簡易版はやめて最終的に詳細版1回でやるしかないと思う。

(会長) 我々の任期内に簡易版を作って詳細版まで作る事は難しいということで、それが現実的なのところだと思う。やや言い訳になるが、アンケートを送った際の依頼文には、ホームページ等で結果を公表すると言っているが、何時までには言っていないので、最終的に6月までにまとめた詳細版のみ団体へお返しすることよろしいですか。

(委員一同) 異議なし。

(会長) 続いて⑥になりますが、アンケートで寄せられた町への意見や要望に対する推進会議での取り扱いについて、町へ個別に回答を求めて推進会議から返答すべきか、また、そこまでは必要ないという2つの意見がありました。これについても幹事会で議論したが結論が出ていませんので、改めて推進会議で図りたいと思います。それぞれの理由があると思いますので、幹事会へ出席された委員からそれぞれの意見をお願いしたい。

(斉藤(正)委員) 幹事会では町に対する意見や要望まで推進会議で返答しなくても良いと言った委員の1人だが、そもそもアンケートは自治基本条例を知っているか、使っているかという傾向を知る事であって、今後それを基にしなが

らどのように展開していくかというもの。団体からいろいろと貴重な意見があったが、それらに回答するためのアンケートではないし、現状がどうか相対的傾向や動向を把握した結果、町に対して報告しながら意見や考え、課題を知ってもらうものである。そのように考えると意見に対する回答は必要ないと思う。

(斉藤(雅)委員) 回答した方が良いという考えになります。確かにアンケートは仕組みを作るために実施したもののだが、この仕組みは団体の協力なくしては動かないので、団体からの要望については、出来るだけ推進会議として対応した方が、将来仕組みを動かす上でプラスになると思う。もうひとつは、町は団体から出ている意見に対して、そのまま分かりましたで済むのかどうかであり、内容的に見ても団体へ電話をかけて聞けばすぐ答えが出る意見も多々あるので、その位の対応はした方が良いと思う。つまり推進会議の姿勢と、アンケートは推進会議と町の連名実施ではなくなったところだが、町は問に対して答えなくても良いのかという2つの問題があり、問に対して町はそのまま黙っている訳にもいかないとと思うので、代わりに推進会議で答えてあげても良いと考えます。

(会長) 推進会議の対応として、答えられる意見には答えるということですが、中には要望などもありますので、中途半端に、ある意見には答えて、ある意見には答えないという扱いでは不公平感も出てくると思う。確認になりますが答えるとすれば全ての意見、要望に答えていく訳ですか。

(斉藤(雅)委員) 寄せられた意見のうち、どれに答えていくかという区分けが出来ていないので、今の段階では私もどれ位の作業になるかは言えない。

(清田委員) 斉藤(雅)委員の意見にも一理あるのだが、意見に回答していくのであれば、会長が言うように全部にやらないと問題が出ると思いますので、私は不可能だと思う。斉藤(正)委員が言うように傾向と対策として、これからの仕組み作りをするための参考資料としていくのであれば、それをまとめ上げていくことが先だと思う。

(井上委員) もともとのスタートとして、協働ということであれば回答も必要であると思うが、一方では6月までに結果を

公表していくことが決定しているので、町に問い合わせをしても簡単には答えが出てこない気もする。今回はやむを得ないと思う。

(会長) この件は作業スケジュールにも係わってきますので、良く議論する必要があると思う。他に意見はありますか。

(斉藤(雅)委員) 推進会議の考え方は、お話のあったように町へ伝えていくということで、時間的にもやむを得ないということであれば結構なのですが、それを受けた町はどうしていくのかを考えていただかないと、なかなか上手くはいかないと思う。団体が出した意見に対して回答がないようであれば協力もなかなか得られないと思います。

(会長) 参考として事務局の意見を伺いたい。

(土屋町民部長) アンケートの目的である仕組み作りが大きな課題であると考え。団体がどのように考え、また自治基本条例をどの位理解されているのかを知る手がかりとしてアンケートを実施したともうと考えている。その中で出てきた意見は、とても貴重なものなのでそれを無視する訳ではなく、推進会議でどういう仕組み作りをしていくのかにアンケートを活かしていただければ良いと感じている。意見に対しては、その後時間的な余裕があれば、次期の推進会議になるかもしれないが、議論しても良いだろうし、その中で町から回答するということであれば、その時に考えていきたい。あくまでも今回は仕組み作りのためのアンケートとして活かしていければ良いと考える。

(会長) 個別意見については、全体としてどのような傾向にあるのか、町に対して仕組み作りを提案する中で斟酌してまとめ上げていき、個々の回答はしなくても良いというのが多くの委員意見だと思われる。ただし、個別意見を無視する訳ではなく、非常に貴重な意見が寄せられているので、こういった意見があるということのを他の町民や団体がお互いの考え方を理解するのに非常に良い機会でもあるので、意見自体は結果に掲載する形にしていくことでよろしいですか。

(小笠原委員) アンケートの設問10で、「関心のあるまちづくりについて、町の担当者から町や他の団体と連携、協力して活動をお願いする場合、町の担当者が気を付けるこ

と、あるいは配慮してもらいたい点がありますか。」について、具体的な意見をいただいております、協働の仕組みを作って活動するとき、意見を出したにも係わらず、問題がクリアできていなければ、こちらが求めるような協力が得られるのか疑問を感じる。時間的な制約があるので6月の最終に出すことは無理かもしれませんが、その後も対応をしていただくことをこの場で確認して欲しい。

(会長) 個別意見に答えていくというものではないが、なかには勘違いや理解違いで、要望が出ているものもあると思うし、場合によっては推進会議でまとめたものから取りこぼれてしまった意見も含めて、推進会議として取りまとめたものに対して、町側で対応や検討をお願いしていくということですか。

(新保委員) 自分は団体としてアンケートに回答した1人でもあるが、答える立場になると同じようなアンケートがよく送られてきて、またかと思うことがある。せっかくだいた意見に対して、取りあえず回答できるものは回答していく方向として、結果は広報やホームページでお知らせしますとなっているので、1回ではなくても、何回かのシリーズにして回答していても良いと思う。難しい問題は時間をかけてでも回答していくことで、誠意を感じてもらえると思う。

(会長) 我々の任期のまとめとして、町へ提言していくときには、アンケートを踏まえたものになるので、それを受けて町が対応する中で個別意見にも配慮していただくイメージになると思うが、そもそも始める前に議論をしていたことだが、具体となってそのままということが多いため、可能な限り早く単純集計をお返ししようと考えていたのだが、答えるとなると慎重にならざるを得なくて時間がかかってしまった。推進会議というよりは町側の対応になると思うので、取りあえず6月に向けて個別意見も含めて、推進会議として取りまとめて町側に渡すことになる。異議がなければそのような形で進めさせていただきたいと思っております。

(委員一同) 異議なし。

(会長) ありがとうございます。なおクロス集計については、

現在事務局と作業を進めていますので、次回の推進会議までには報告させていただく。

(斉藤(雅)委員) 集計表のコメント修正について、資料3では設問1と設問5の修正内容は記載されておりますが、設問9から15のコメントについて、特に設問11の「わからない」と回答した団体を「思わない」と一緒に70%にしている部分は問題があるということで、前回の幹事会で発言させていただいた訳ですが、今回それが直っていないようなので、原案が正しいとの考えなのか確認させていただきたい。

(会長) 事務局から回答をお願いします。修正するという事によろしいですか。

(事務局) 資料2の第4回幹事会の会議概要にありますように、幹事会での意見は出来るだけ反映して直します。

## 2 各部会等報告

(会長) 町民参加研究部会より報告をお願いします。

(斉藤(雅)委員) 委員の皆様からのご意見ありがとうございました。資料4をご覧ください。基本的にいただいたご意見は反映しております。～資料4の説明(省略)～

(会長) ありがとうございました。意見、質問があればお願いします。

(事務局) 補足ですが、庁内アンケートの実施依頼文は会長名となりますが、アンケートの入力方法や回答の仕方など事務的な注意書きについては、当課から各課あての事務文章の中で対応します。

(会長) 一委員としての意見になるが、このアンケートは各課での現状を確認する内容と、賛成か反対かの意向を確認する2つの構成になっており、課単位でアンケートを実施するにあたって、賛成、反対という結果がどういう形で外に出ていくのか、あらかじめ依頼文に明示した方が各課での自由活発な議論に繋がると思うし、可能な限り職員が持っている自由な意見を聞きたいのであれば、集計されることによって個人の意見が外に出ることはないということに配慮した方が、より本音を聞き出せると思う。

(斉藤(雅)委員) 公表はしないという意味で、基礎資料にす



ると記載してあるのですが。

(会長) それを読み取れないと無難な回答しか出てこないと思うので、例えば「個別の課名については公表せず」のような一文を加えた方が、本音が聞き出せると思う。事務局から各課に対する事務文章を出す旨の話がありましたが、本文となる推進会議からの依頼文に一文を加えた方が良いと思う。

(斉藤(雅)委員) では、「原則として基礎的な検討資料だけに活用させていただく」としてはどうでしょうか。

(会長) 各課の個別の意見については、推進会議の中でだけ使わせていただくということで、その方が実直な意見が出てくるでしょうし、各課での自由な意見形成にも繋がると思いますのでよろしくお願いします。他に意見がなければ、女性の活躍の場研究部会の報告をお願いします。

(小笠原委員) 世界の流れとしては女性の活躍が活発に行われておりますし、我が国でも安倍政権において第3の矢として、女性の社会進出が経済を救うということがあるなかで、部会として、町として取り組む課題を申し上げます。

～資料5の説明(省略)～

(会長) ありがとうございます。確認になりますが寒川町には男女共同参画推進に係る条例はありますか。

(事務局) ありません。

(会長) 女性の立場として、平本委員からいかがですか。

(平本委員) 町の女性団体の一員として、多くの会議に参加しているがそれが本当に良いものかどうか、ただ女性が出れば良いというものでもないと思うし、それぞれに合った意見を持つ方もたくさんいる中で、何も分からない者が入っても馴れるのも大変なところがある。

(会長) そのためにいろいろな女性が参加して、ベースを広げるような講座を開催するという部会提案もあります。

(平本委員) 女性がいろいろなところに出ることで、自分にとっても勉強になり大変良いことだと思うので、やっていただけの方がたくさんいれば良いのですが、なかなか難しい。

(小笠原委員) 資料5のうち、参考と記載してあるページをご覧ください。この中で女性が相当入っている審議会等もあ

りますが、例えば、1の寒川町防災会議については、委員22名中で女性は1人となっています。詳細は分からないが公募がゼロであることから、各種団体からの選出になっていると思われま。阪神淡路大震災を見ても、避難所の中で女性が活かされてなくて、なぜ活かされなかったかという、大事なことを決める会議の中に女性が入っていないことにより漏れてしまっているのだと思う。避難所で女性や子どもが十分な配慮がされていない状況に置かれていることを、皆さんに分かってもらうためにも、またそういったことを2度と起こさないためにも、審議会等に女性が入って施策の中に活かしていけるようにしたいと思います。

(会長) 男女比は50:50ですから、50%が望ましいのですが、現実にはそうになっていないのでミニマムの努力規定として、40%を下回らないことを目指している訳ですが、下限を決めるのではなく目標を高くするほうが良いと思われま。50:50が理想である中でミニマム規定というものは、一方で目標のハードルを下げているイメージにも取られかねない部分があり、本来の理想である50:50を言い続けるべきだという議論もありますので、50%を目指しつつも40%は下回らないようにした方が、考え方としては良いのかもしれない。これは一委員としての意見で部会としての考えは尊重します。次に熟年パワー社会還元研究部会の報告をお願いします。

(藤岡委員) 座長の押味委員が欠席のため代わって報告します。～資料6の説明(省略)～

(山口委員) その他、行政内での仕事のうち熟年パワーに回して良いものの確認は、町民参加研究部会で作成した市内アンケートに設問を取り入れてもらえることになった。また具体的な活動について、町役場の他セクションから、国方針で介護や医療へのポイント制の話も出ており、熟年パワー予備軍の人達として抽出されたアンケートが、たまたま私の所に届き、部会での検討内容が行政の他のセクションでも検討されているところで、だぶってしまう部分をなんとか一本化出来ないかと提案している。

(会長) 資料のイメージとしては、現状分析と目指すべきビ

ジョンがあるが、ビジョンに向けては、どのようにして、どこまで詳細なものを作り上げて提言していくのかについてはいかがですか。

(山口委員) 部会の中でも、もう少し具体性を出した方が良いという意見があり、形ばかりの表面だけをやっても進まないという中で、具体的に熟年パワーを使ったほうがスタートのきっかけが出来るのではないかと、大局的に見たときには実際の活動まで進まないのではないかとという心配の意見もある。出来れば6月の最終までに具体的な活動の提案が出来ればという意見も出ています。

(会長) ビジョンを達成するために、どこから手を付ければ良いのか、部会としてより具体的なものとしていただければより進んでいくと思います。

(森井委員) 各種活動想定の中にも、お茶飲みの老人サロンがある。民生委員は南、中、北と3ブロックに分かれており自分が属する北部では、以前はお弁当を作って顔を見られる会があったが、会が出来なくなってからは、1人では寂しいので一緒にお茶を飲んでお喋りできる場が欲しいという声により、2年程前から地区の集会所を借りてお茶飲みサロンをやっている。部会報告の中かで、空き店舗を利用したサロンの話があったところだが、とてもありがたいことだと思う。

(会長) 貴重な情報をありがとうございます。現状でやっているものとは別に何かをやっていくときには、現状との整合性も含めて検討することも必要になると思います。

(脇委員) 北部の小動にはシルバー人材センターがあり、それと重複するところもあるので、違った意味での熟年パワー用のシルバー人材センターみたいなものを町に要望し、南部地区に設けるような方向で土壌作りをしたらどうかと思う。公民館事業には女性も多く参加されているが、それは本人が好きだからやっていると思う。本人が好きなことを出来る様な土壌を作っていくことが先で、そうすることで芽が出てくると思う。そのような土壌を作らずに人を引っ張り出すことだけを考えていても、なかなか芽は出ないと思う。

(副会長) 地ならしと言いますか、耕すことがまだまだとい

うことですね。参考にさせていただきます。

(藤岡委員) 例えば自治会でサロンのことをやっても、引きこもりがちな方に出てきてもらうのは難しく、これは民生委員も一緒だと思います。あの手この手で手紙を書いたり、友達が誘ってみたりしているが、なかなか大変なこと。そんな意味でピンクのハートマークの付いた家がたくさんあったら良いなというのが個人的な意見です。

(新保委員) 自由にお茶を飲んだり、トイレを利用できる、ほっとスペースというものがありますので、それと提携するなどして、利用していければ良いと思う。

(藤岡委員) 一般的にはあまり知られていないようなので、もっと誰が来ても良いと思ってもらえるPRをしていく必要がある。

(会長) いろいろなご意見ありがとうございました。次に住民投票条例勉強会の報告をお願いします。

(副会長) 2月14日(金)に勉強会を開催する予定でしたが、残念ながら大雪の影響で出来ませんでした。なぜ住民投票条例が必要なのか勉強し、6月最終の推進会議には報告をしていく。～資料7の説明(省略)～

(小笠原委員) 他の研究部会は皆忙しい中でも会議を開催して進めている。いろいろな事情があるのも分かるが、住民投票条例については、勉強会で検討していくことが決まってスタートしているのに、会議を開催出来ずに毎回同じような報告ばかりなのはどうかと思う。

(副会長) 委員には資料を配ってコミュニケーションをしっかりと取った上でそれぞれ研究しており、6月の最終までには、どういう形での住民投票条例が良いのか結論をしっかりと出して次に繋げていけるようにしますので、その結果でのご判断いただきたいと思います。

(小笠原委員) 前期の推進会議から町長へ提出された提言書では、住民投票条例策定に向けて早急に着手していただきたいと言われているので、これについても尊重していただくようお願いいたします。

(会長) 今期当初の推進会議では、町として早急に策定するつもりはないとの回答をいただいておりますが、これに答えていくのは町ということになります。

(副会長) 前期から引き続きの宿題でありますし、ないがしろにするつもりもありません。前期の推進会議の提言については、敬意を表しつつも、当然参考にさせていただきます。

### 3 今後の取り組み・スケジュール

(事務局) ～資料8、資料9の説明(省略)～

(会長) 資料9の⑤ですが、推進会議の議事録の取り扱いについて、委員から意見があったので本日の会議で議論するということですか。

(事務局) その通りです。昨年までは発言された委員全員に未定稿の議事録チェックを送付して確認していたようですが、今年度は議事録署名人に指名された委員のみ確認をお願いしていました。今回、委員から意見が寄せられましたので改めて確認をお願いしたいと思います。

(議事録の取り扱いについて確認した結果、賛成多数で署名人に指名された委員のみ確認していただく事を確認。)

(会長) 資料8の今後の取り組みスケジュールのうち、5月のところでは、推進会議の最終取りまとめをしていく章立てのようなイメージになると思う。資料では項目の上から町民活動団体アンケート、各研究部会、研究部会の検討結果を受けての仕組み作り、庁内アンケートとなっているが、実際には町民参加研究部会が中心に進めている庁内アンケートは町民参加研究部会の活動報告の中に取りまとめられて、それを受けて仕組みの提案が出てくるものとなる。資料では活動毎に項目が並んでおり、それぞれの項目がバラバラに報告されるようなイメージだが、実際にはそれぞれの項目がバラバラに報告されるのではなく、すべての活動が仕組み作りに集約されるものとなる。大事なところなので最終構成については委員全員でイメージを共有しておく必要がある。念のための話になるが、団体アンケートの実施も仕組み作りのために実施した訳で、その結果だけを出すのではなく、結果を受けて最終的に仕組み作りに集約されていく形となるし、最終的な取りまとめの構成としては、各部会の報告が仕組みの取りまとめの各部分を構成していて、それぞれが団体及び庁内アンケートの成果を入れ込んで斟酌し、仕組み作りの提案を行っていくイメージと

していくことでよろしいでしょうか。

(斉藤(雅)委員) 確認したいのですが、資料の項目のうち、いろいろな団体がネットワークを深めて活動していける仕組みについては、前期の推進会議から提案されているところですが、資料のままのイメージでよろしいですか。今後3月から5月までの3ヶ月間は、これについて議論していくことでよろしいですか。

(会長) 語句をそのまま引き継ぐかどうかは別にして、最終的な着地点としてはお話のとおりです。仕組み作りの提案に着地していくという共通認識を持っていただき、これから各部会の活動を取りまとめていく中で、各部会のゴールするところについては共有のイメージを持っていただきたいと思います。事務局からも意見があればお願いします。

(事務局) イメージとしては会長がお話しされたとおりでと思います。なお、事務的な話になりますが、5月開催予定の幹事会までにはある程度まとめていかないと、6月の最終には間に合わなくなってしまうと思います。

(会長) 3月、4月が頑張り所になるということで、各部会でも引き続き6月の最終に向けてご協力いただけたいと思います。最後に資料10について事務局より説明をお願いします。

(事務局) ～資料10の説明(省略)～

(会長) 資料9の②を受けて資料10は事務局で準備していただいたものですか。

(事務局) その通りです。実際に仕組みの構築について、今までどのような意見が出されていたか振り返ると、24年度第1回の会議で意見が出されておりましたので、過去の意見も踏まえて、最終的な取りまとめに反映していただくために準備しましたので、参考としてご覧いただき議論をお願いしたいと思います。

(会長) 資料8と係わってくるところですが、資料8では各部会の検討結果に委ねられていて、その結果が資料10にあるような結果になるイメージだと思います。前期推進会議からの提言として、我々が引き継いだ部分になりますので、各部会では資料10を参照しながらまとめていただくものという理解でよろしいですか。ただし資料10全てに

触れていくとなると、今期の推進会議自体としてのオリジナリティが出てこなくなってしまう。なかには継承していくものもあると思いますので、各部会の取りまとめの際に資料10の内容を含めて議論していただく形になると思います。

(谷村委員) もともと、前期推進会議の課題であったこの考えに基づいて、アンケートや各部会に取り組んできた訳ですから、会長のお話のように6月の最終取りまとめの時には、これを意識し、これを受けて今期の結論とすれば良いと思う。

(会長) 最終的な取りまとめに向け、5月の幹事会で改めて各部会の報告を取りまとめる際に、資料10を参照する形として、各部会でも取りまとめに向けて資料10の内容を参照していただきたいと思います。

(斉藤(雅)委員) 資料10の中で重視することとしては、横のネットワークを広げるということが中心になるのでしょうか。

(会長) そこだけには限らないと思うので、ここでは資料10の全体を見ていくことになると思います。

(斉藤(雅)委員) 協働の環境作りがどうなっているのかについては表示できると思うが、その中の手段のひとつとして仕組みがある訳ですよ。その手段としては横のネットワークを広げていくという意見があったところなので、これを主に置いてもよろしいでしょうか。

(会長) それを受けてアンケートを実施したところだが、必ずしも主とは言えないと思う。そもそも提言は町に向けてのものなので、推進会議が全てを引き継ぐという訳ではないと思う。昨年度の議論の中で前期の提言を受けて第3期として引き取るということでアンケートを実施した訳ですが、第2期からの全ての項目に対して第3期が答えるというものでもないと思う。当然ながら取りまとめの中でひとつの指針になるであろうとは思いますが。

(斉藤(雅)委員) 取りまとめがこのようなイメージになるということですね。

(会長) イメージの参照になります。他に意見がなければ閉会とさせていただきます。今後の会議についてもスムーズ

	<p>な進行にご協力をいただきますようお願い致します。本日はお忙しい中ありがとうございました。</p> <p>～午後4時10分閉会～</p> <p>〈議事録承認委員の指名〉          斉藤（正）委員と山口委員を指名</p>
<p>配付資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○次 第 平成25年度第3回寒川町まちづくり推進会議次第</li> <li>○資料1 寒川町まちづくり推進会議委員名簿</li> <li>○資料2 平成25年度寒川町まちづくり推進会議幹事会（第4回）会議概要</li> <li>○資料3 町民活動団体アンケート結果の対応について（幹事会結果を踏まえて）</li> <li>○資料4 民参加研究部会資料</li> <li>○資料5 女性の活躍の場研究部会資料</li> <li>○資料6 熟年パワー社会還元研究部会資料</li> <li>○資料7 住民投票条例勉強会資料</li> <li>○資料8 今後の取り組みスケジュール（案）</li> <li>○資料9 今後の取り組み・スケジュールに対し提出のあった意見</li> <li>○資料10 第2期推進会議から提言のあった「色々な団体がネットワークを深めて活動していける仕組みの構築」について、平成24年度第1回まちづくり推進会議における意見の抜粋</li> <li>○資料11 寒川町まちづくり推進会議内規</li> </ul>
<p>議事録承認委員及び          議事録確定年月日</p>	<p>斉藤（正）委員、山口委員（平成26年3月14日確定）</p>